受験番号		名　前	

令和４年度　大阪市公立学校・幼稚園教員採用選考テスト

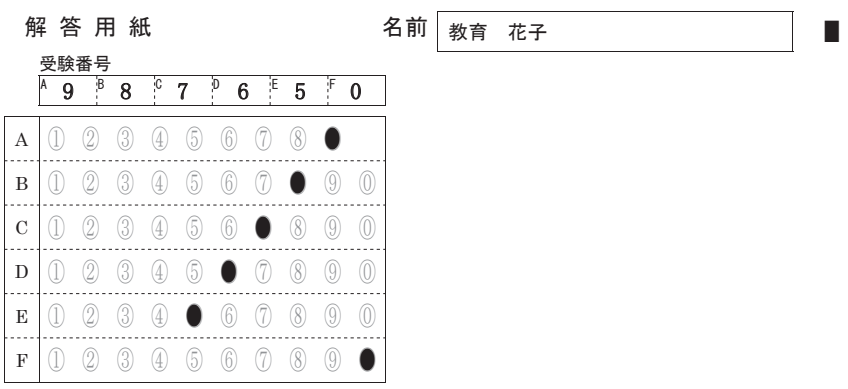
幼稚園・小学校共通　　教科専門　問題集　（択一式）

受験中の心得

1　試験時間中は、すべて係員の指示に従ってください。お互いに話をしたり、席を立ったり、そのほか、人の迷惑になるようなことをしてはいけません。

2　試験開始後、まず名前を記入し、受験番号を次の〔記入例〕に従って黒くぬりつぶしてください。

〔記入例〕



3　答えは解答用紙に記入してください。

4　問題はいずれも五つの答えがでていますが、そのうち最も適切と思われる答えを一つ選んで、解答用紙の問題番号の右にある五つの数字のうち一つを次の〔解答例〕のように黒くぬりつぶしてください。

〔解答例〕　1　　日本の首都はどこか。１～５から一つ選べ。

１　京都　　２　奈良　　３　東京　　４　名古屋　　５　大阪

この場合、正答は「３　東京」なので、解答用紙の問題番号1の右横に並んでいる③を黒くぬりつぶしてください。

5　間違ってぬりつぶしたときは、消しゴムでよく消してください。

6　問題は 24 問となっています。

7　時間は 90 分です。

8　途中退室はできません。

9　解答用紙は持ち帰ってはいけません。

10　計算を必要とする場合は問題集の余白を利用してください。

指示があるまで中をあけてはいけません。

1 次のア～エの各文は、幼稚園教育要領（平成29年３月告示）「第１章　総則」に関する記述の一部である。正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。

ア　第１　幼稚園教育の基本

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、教育基本法に規定する目的及び目標を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。

イ　第２　幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

１　幼稚園においては、生きる力を育むため、この章の第１に示す幼稚園教育の基本を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努めるものとする。

ウ　第３　教育課程の役割と編成等

５　小学校教育との接続に当たっての留意事項

⑵　幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

エ　第４　指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価

３　指導計画の作成上の留意事項

指導計画の作成に当たっては、次の事項に留意するものとする。

⑶　言語に関する能力の発達と思考力等の発達が関連していることを踏まえ、幼稚園生活全体を通して、幼児の発達を踏まえた言語環境を整え、言語活動の充実を図ること。

	ア	イ	ウ	エ
1	×	×	○	○
2	○	×	×	×
3	×	○	○	○
4	○	○	○	×
5	○	×	×	○

2 次のア～エの各文は、幼稚園教育要領（平成29年３月告示）「第２章　ねらい及び内容　言葉３　内容の取扱い」に関する記述の一部である。正しいもののみをすべてあげているものはどれか。１～５から一つ選べ。

ア　言葉は、身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意志などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して次第に獲得されていくものであることを考慮して、幼児が教師や他の幼児と関わることにより心を動かされるような体験をし、言葉を交わす喜びを味わえるようにすること。

イ　感動体験が幼児の中にイメージとして蓄えられ、表現されるためには、日常生活の中で教師や友達と感動を共有し、伝え合うことを十分に行えるようにすること。

ウ　幼児が自分の思いを言葉で伝えるとともに、教師や他の幼児などの話を興味をもって注意して聞くことを通して次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようにすること。

エ　幼児が日常生活の中で、文字などを使いながら思ったことや考えたことを伝える喜びや楽しさを味わい、文字に対する興味や関心をもつようにすること。

1	ア	エ	
2	イ	ウ	
3	イ	エ	
4	ア	イ	ウ
5	ア	ウ	エ

3 次のア～エの各文は、教育基本法（平成18年12月施行）「第二章　教育の実施に関する基本」に関する記述の一部である。正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア　法律に定める学校は、公の性質を有するものであって、国、地方公共団体及び法律に定める法人等が、これを設置することができる。

イ　法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。

ウ　学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。

エ　法律に定める学校は、特定の宗教のための宗教教育その他宗教的活動をしてはならない。

	ア	イ	ウ	エ
1	×	○	○	×
2	○	×	×	○
3	○	×	○	○
4	×	×	○	○
5	×	○	×	×

4 次のア～カのうち、幼稚園教育要領（平成29年３月告示）「第２章　ねらい及び内容　健康　２　内容」に関する記述として、正しいもののみをすべてあげているものはどれか。1～5から一つ選べ。

ア　先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。

イ　自分でできることは自分でする。

ウ　いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。

エ　身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄（せつ）などの生活に必要な活動を自分でする。

オ　様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。

カ　よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。

1	イ	オ	
2	エ	オ	
3	ア	ウ	カ
4	ア	エ	オ
5	イ	ウ	カ

5 次の文章は、幼稚園教育要領解説（平成30年２月　文部科学省）「第２章　第２節　１　心身の健康に関する領域『健康』［内容の取扱い］」に関する記述の一部である。空欄Ａ～Ｃにあてはまるものをあとのア～ウから選んだ場合、正しい組合せはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。

幼児は一般に意欲的に活動する存在であり、魅力的な環境に出会えば、生き生きとそれに関わる。室内の活動に偏り、戸外に関心を示さない傾向があるとすれば、戸外の環境の見直しをしなければならない。自然に触れ、その自然を感じながら伸び伸びと体を動かすことにより、体の諸機能の発達が促されることに留意し、幼児の興味や関心が戸外にも向くように、次の点から幼児の動線に配慮するようにすることが大切である。

第一に、幼児の遊びのイメージ、興味や関心の広がりに応じて行動範囲が広がることを考慮することである。

A

第二に、園庭全体の空間や遊具の配置を幼児の自然な活動の流れに合わせるということである。

B

第三に、園庭は年齢の異なる幼児など多くの幼児が同じ場所で活動したり、交流したりする場であり、それぞれの幼児が安定して自分たちの活動を展開できるように園庭の使い方や遊具の配置の仕方を必要に応じて見直すことである。

C

ア　戸外の活動に必要な環境としては、イメージを実現する面白さを味わおうとする幼児には遊びの拠点となるような空間や遊具が、友達とルールのある運動的な遊びを展開しようとする幼児には比較的広い空間が、木の葉や虫に触れて遊ぼうとする幼児にはその季節に応じた自然環境が必要である。教師は、幼児が実現したいと思っていることを理解し、空間の在り方やそれに応じた遊具の配置を考えなければならない。

イ　例えば、ルールのある活動に取り組む活発な５歳児の動線が、３歳児の砂場の水くみの動線と交差するような場合には危険を伴うので、幼稚園全体で園庭の使い方について話し合い、見直す必要があるだろう。室内環境に比して、戸外の環境は年間を通して同じ遊具が配置され、空間が固定的になっている傾向がある。幼児の興味や関心に即したものになるように配慮しなければならない。

ウ　例えば、室内でままごとをしている幼児がイメージの広がりとともに、「ピクニックに行こう」と戸外に出ていくことがある。この場合、戸外にもままごとのイメージを実現できるような空間や遊具が必要になろう。また、逆に、戸外での刺激を室内の活動に反映させることもある。室内と戸外が分断された活動の場としてではなく、幼児の中でつながる可能性があることに留意する必要がある。

	A	B	C
1	ア	イ	ウ
2	ア	ウ	イ
3	イ	ウ	ア
4	ウ	ア	イ
5	ウ	イ	ア

6 次の文章は、日本学校保健会「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン（令和元年度改訂）」に示されているアドレナリン自己注射薬（「エピペン®」）に関する記述の一部である。下線部（ア）～（ウ）の記述について正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

アドレナリンはもともと人の副腎から分泌されるホルモンで、主に心臓の働きを強めたり、末梢の血管を収縮させたりして(ア)血圧を上げる作用があります。「エピペン®」はこのアドレナリンを注射の形で投与できるようにしたものです。

投与のタイミングとしては、アナフィラキシーショック症状が進行する前の初期症状（呼吸困難などの呼吸器の症状が出現したとき）のうちに注射するのが効果的であるとされています。(イ)アナフィラキシーの進行は一般的に緩やかですが、「エピペン®」が手元にありながら症状によっては児童生徒等が自己注射できない場合も考えられます。

アナフィラキシーの救命の現場に居合わせた教職員が、「エピペン®」を自ら注射できない状況にある児童生徒等に代わって注射することは、(ウ)緊急やむを得ない措置として行われるものであり、医師法違反にならないと考えられます。また、医師法以外の刑事・民事の責任についても、人命救助の観点からやむを得ず行った行為であると認められる場合には、関係法令の規定によりその責任が問われないと考えられます。

	ア	イ	ウ
1	○	○	×
2	○	×	○
3	×	○	×
4	×	×	○
5	○	○	○

7 次のア～エの各文のうち、幼稚園教育要領解説（平成30年２月　文部科学省）「第１章第５節　特別な配慮を必要とする幼児への指導」に関する記述として正しいもののみをすべてあげているものはどれか。１～５から一つ選べ。

ア　個別の教育支援計画の活用に当たっては、例えば、適切な支援の目的や教育的支援の内容を設定したり、就学先である小学校に在園中の支援の目的や教育的支援の内容を伝えたりするなど、切れ目ない支援に生かすことが大切である。その際、個別の教育支援計画には、多くの関係者が関与することから、保護者の同意を事前に得るなど個人情報の適切な取扱いと保護に十分留意することが必要である。

イ　園長は、特別支援教育実施の責任者として、特別支援学校等から特別支援教育コーディネーターを招き、園全体の特別支援教育の体制を充実させ、効果的な園運営に努める必要がある。その際、各幼稚園において、幼児の障害の状態等に応じた指導を充実させるためには、特別支援学校等に対し専門的な助言又は援助を要請するなどして、計画的、組織的に取り組むことが重要である。

ウ　特別支援教育において大切な視点は、一人一人の障害の状態等により、生活上などの困難が異なることに十分留意し、個々の幼児の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を検討し、適切な指導を行うことであると言える。

エ　個別の指導計画は、個々の幼児の実態に応じて適切な指導を行うために学校で作成されるものである。個別の指導計画は、教育課程を具体化し、障害のある幼児など一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するものである。

1	ア	エ	
2	イ	ウ	
3	イ	エ	
4	ア	イ	ウ
5	ア	ウ	エ

8 次のア～エの各文のうち、幼稚園教育要領解説（平成30年２月　文部科学省）「第２章第３節　環境の構成と保育の展開」に関する記述の一部として、正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア　発達の時期に即した環境を構成するためには、幼児の長期的な生活の視点に立つことが必要である。幼児が生活する姿は、発達のそれぞれの時期によって特徴のある様相が見られる。

イ　環境を考えるに当たって、遊具や用具、素材など物的環境をどうするかは大切な問題である。しかし、幼児の活動に影響を与えている環境の要素は物だけではない。その場にいる友達や教師、そのときの自然事象や社会事象、空間的条件や時間的条件、さらには、その場の雰囲気なども幼児の主体的活動や体験の質に影響を与えている。

ウ　幼児の活動は、教師の適切な援助の下で、幼児が環境と関わることを通して生み出され、展開されるものである。教師は幼児が環境に関わって展開する具体的な活動を通して発達に必要な経験が得られるよう、援助することが重要である。

エ　教師は幼児の活動の流れに即して、教師が実現させたいことに基づいて、教師の思いやイメージを生かしながら教師が環境を全て準備することが大切である。このようにして、幼児自身が自ら学び、自ら考える力の基礎を育むことができ、主体性を育てることができるのである。

	ア	イ	ウ	エ
1	○	○	○	×
2	×	○	×	○
3	○	×	○	×
4	×	×	○	○
5	○	×	×	○

9 次のア～オの各文は、幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開（令和３年２月文部科学省）「第１章　指導計画作成に当たっての基本的な考え方」に関する記述の一部である。正しいもののみをすべてあげているものはどれか。1～5から選べ。

ア　指導計画は、あくまでも計画であり仮説であるため、実際に展開される生活や一人一人の幼児の実態に応じて指導の過程が適切であったのかどうか評価し、改善していかなくてはなりません。

イ　評価をする際には、幼児の発達する姿を必ず年齢ごとの平均的な発達像と比較してその差異から捉えることと、それに照らして教師の指導が適切であったのかを振り返ることの幼児と教師の指導の両面から行うことが大切です。

ウ　幼児の活動と教師の意図とのすれ違いが生じることが問題ではなく、そのすれ違いからよりよい指導をつくり出すことが重要であり、それが教師に求められていることなのです。そのためには、教師自身が幼児との関わりを振り返りながら指導の過程を見直し、それらを次の指導計画の作成に生かしていくことが必要です。

エ　日々の保育の記録を工夫しそれを累積していくことや、教師間で幼児理解や指導について話し合い、一人一人の幼児を多面的に捉える機会を設けることなど、園全体で計画的かつ組織的に取り組んでいくことが重要です。

オ「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は明らかな姿として特に５歳児前半に見られるようになる姿です。そのため、幼児の行動を「記録」し、幼児の生活する姿を捉えるという全体的・総合的な視点に加え、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」も踏まえて、発達の諸側面から分析的に捉えることで、発達の姿や課題が明確になり、次の指導計画の改善につながっていきます。

1	イ	ウ	
2	イ	オ	
3	ア	イ	オ
4	ア	ウ	エ
5	ウ	エ	オ

10　次のア～ウの各文は、環境教育指導資料［幼稚園・小学校編］（平成26年10月　国立教育政策研究所教育課程研究センター）「第２章　幼稚園における環境教育」に関する記述の一部である。正しいもののみをすべてあげているものはどれか。１～５から一つ選べ。

ア　幼児期の子供にとって、身近な環境と関わる体験は、幼児期にふさわしい発達を紡ぎ出す土壌であり、この意味で、環境がいかにあるかは重要である。すなわち、子供は、直接的・具体的な体験から、環境について多くのことを学び、生きるために必要なことを獲得していく。この意味で、まさに、生活の場が、環境を学ぶ場であり、学習の場である。
　もちろん、幼児期の子供は、環境について言葉で理解したり表現したりすることはうまくできないし、そのことをうまくさせようとして一方的に働き掛けても、あまり意味がない。

イ　幼児期の子供は、常に自分を取り巻く環境に興味をもち、それらに親しみをもって関わり、働き掛けていく。面白そうなものを見付けると、じっと見入ったり、触れたり、試したり確かめたりして、「それは、何か」あるいは「それは、なぜなのか」などについて、子供なりに探り、理解しようとする。それは、あくまでも子供なりの論理であり理解であるので、正しい知識が効率よく身に付くように活動を展開させ、指導することが大切である。

ウ　幼児期の子供の生活は、家庭を基盤として、地域社会を通じて次第に広がりをもつものである。家庭や地域での生活経験が、幼稚園において教師や友達と一緒に生活する中で更に豊かになったり、幼稚園生活で培われたものが家庭や地域社会での生活に生かされたりする循環の過程で、体験は豊かになっていく。このため、幼児期からの環境教育を進める際には、保護者の理解と協力は欠かせない。また、保育参観や園便り等を通して、幼稚園での取組の様子を知らせ、幼児期からの環境教育の趣旨を発信することも必要である。

1　ア
2　イ
3　ア　ウ
4　イ　ウ
5　ア　イ　ウ

11 次の文章は、幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開（令和３年２月　文部科学省）５歳児６月の事例「皆で生活グループの名前を考えよう」の一部である。幼稚園教育要領（平成29年３月告示）領域「人間関係」、「言葉」のそれぞれの面からこの事例のねらいにふさわしいものをあとのア～オから選択したとき、最も適するものの組合せはどれか。１～５から一つ選べ。

生活グループでは、いつも一緒に遊ぶ気の合う友達ばかりではなく、様々な友達と関わる機会をもつことができるように、また、友達のよさを発見したり、友達と協力して何かを成し遂げたりする経験ができるようにすることを目的としています。新しいグループになって初めての活動が、「皆で生活グループの名前を考えよう」という活動でした。

６月14日（木）

１週間後に動物公園への遠足を予定している。そのこともあり、生活グループを新しくした際に「動物の名前をつけたい」という声が上がり、グループ名を決めることになる。

Ｈ児・Ｎ児・Ｔ児・Ｒ児・Ｓ児

Ｎ児・Ｒ児　「ハリネズミにしない？」「かわいいよ」

Ｓ児　「うーん、私はウサギがいいけど、でもハリネズミもかわいいからいいよ」

Ｔ児　「ぼくもハリネズミでいい」

Ｓ児　「でも、ハリネズミは針をだすから痛いよ。痛いからいやかな」

Ｓ児　「先生、ハリネズミは針を出す？」

教師　「どうかな？敵には出すかもしれないけど、慣れると針は出さないと思うよ」

Ｓ児　「じゃあハリネズミがいい」

Ｈ児　「ぼくはクジャクがいい。ハリネズミはなんだかしっくりこない」と何度もつぶやく。

Ｒ児　「ねえ、多い方にしない？」

ハリネズミがいい人は４人、クジャクがいい人は１人。

Ｈ児　「いやあ、しっくりこない」

教師　「それぞれにいいところを言ってみたら？」

Ｈ児　「クジャクは豪華だよ」

Ｓ児・Ｎ児・Ｒ児　「ハリネズミはかわいいじゃない」

話合いの時間が終わっても結局決まらない。

教師　「どんぐり文庫（図書室）でハリネズミとかクジャクとか調べられないかな？」

Ｎ児・Ｒ児、図鑑を借りてくる。Ｈ児も鳥の本を借りて、皆で本を見合う。

Ｈ児　「ほら、こんなに豪華だよ」

他の４人　「でもハリネズミがかわいい」

この日、このグループの名前は決まらなかった。　（中略）

６月20日（水）
決まらない毎日が続く。
Ｈ児は、すぐに決まったグループのＪ児に聞く。
Ｈ児 「どうやってぞうグループってすぐに決まったの？」
Ｊ児 「ぞうってかっこいいし、皆『いいねえ』ってなったよ。」
Ｈ児 「へえ」 （中略）

６月21日（木）。とうとう遠足当日になり、グループ名が決まらないまま遠足に行く。Ｈ児はカピバラが気に入り、「カピバラがいい」と言い出す。Ｔ児も同意。しかし結局決まらない。

７月４日（水）
教師は「名前はもうなくてもいいのかな。」とつぶやき、この５人にゆさぶりをかける。すると、誕生会のおやつ後、幼児たちで話合いを始める。
Ｈ児・Ｔ児 「カピバラがいい」
Ｎ児・Ｓ児・Ｒ児 「ハリネズミ」
Ｒ児 「多い方ってことは？」
Ｈ児 「えー、それはー」
教師 「じゃあどうする？」
Ｈ児 「にらめっこは？」
Ｒ児 「にらめっこは決まらないよ。誰も笑わないよ」
Ｈ児 「前やったとき、おじいちゃんとか、げらげら笑ったよ」
そしてにらめっこ。ずっとやっても誰も笑わない。
Ｓ児 「顔痛いよ」 決まらない。
教師 「ジャンケンは？」
皆 「んー」
教師 「このまま名前なし？」
皆 「それはいやだ」
教師 「ハリネズミカピバラは？これなら ２つ入っている」
皆 「それいいかも」「いいね」 （後略）

ア　生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

イ　明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。

ウ　人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。

エ　感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。

オ　身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。

	「人間関係」	「言葉」
1	イ	ア
2	ウ	エ
3	ウ	オ
4	オ	ウ
5	オ	エ

12 次のア～エは、幼稚園教育要領解説（平成30年２月　文部科学省）「第２章　ねらい及び内容　第２節　各領域に示す事項」に関する記述の一部である。示されている領域とその内容の一部の組合せとして、正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しいものの組合せはどれか。１～５から一つ選べ。

ア　人との関わりに関する領域「人間関係」

幼児は、人に対する優しさや愛情を人間関係の中で学んでいくので、幼児の中に家族を大切にする心を育んでいくためには、幼児自身が家族から愛されているということを実感することも大切である。このようなことについて、親や祖父母などの家族にも理解してもらうよう働き掛けることが必要である。

イ　身近な環境との関わりに関する領域「環境」

交通安全の習慣を身に付けさせるために、教師は日常の生活を通して、交通上のきまりに関心をもたせるとともに、家庭と連携を図りながら適切な指導を具体的な体験を通して繰り返し行うことが必要である。

ウ　人との関わりに関する領域「人間関係」

身近な地域社会の文化や伝統に触れる際には、異なる文化にも触れるようにすることで、より豊かな体験にしていくことも考えられる。さらに、幼稚園生活で親しんだ伝統的な遊びを家族や地域の人々と一緒に楽しむことなどにより幼児が豊かな体験をすることも大切である。

エ　心身の健康に関する領域「健康」

片付けなどの基本的な生活行動は、まず家庭の中で獲得されるものであり、幼児一人一人の家庭での生活経験を捉えて指導を考えるなど家庭との連携を図ることが大切である。

	ア	イ	ウ	エ
1	×	○	×	○
2	○	×	×	○
3	×	○	○	×
4	○	×	○	×
5	×	×	×	○

13 次の（1）～（4）は、幼稚園教育要領（平成29年３月告示）「第１章　総則　第２　幼稚園教育において育みたい資質・能力及び『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』」に関する記述の一部である。空欄Ａ～Ｃにあてはまるものを下のア～ウから選んだ場合、正しい組合せはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。

（1）健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

（2）自立心

A

（3）協同性

B

（4）道徳性・規範意識の芽生え

C

ア　友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

イ　友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

ウ　身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

	A	B	C
1	ア	イ	ウ
2	ア	ウ	イ
3	イ	ウ	ア
4	ウ	ア	イ
5	ウ	イ	ア

14 次の文章は、学校安全資料「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育（平成31年３月文部科学省）「第２章　学校における安全教育」の記述の一部である。下線部（ア）～（エ）の記述について、正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。

２　教育課程における安全教育

（１）幼稚園

幼稚園教育要領（平成29年文部科学省告示第62号）の領域「健康」では、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。」とし、「(ア) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。」ことがねらいとして示されている。その内容としては、「(イ) 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。」こと、内容の取扱いにおいては「(ウ) 安全に関する指導に当たっては、厳しい指示や注意を行う必要はなく、遊びを通して安全についての構えを身に付け、危険な場所や事物などが分かり、安全についての理解を深めるようにすること。また、交通安全の習慣を身に付けるようにするとともに、避難訓練などを通して、災害などの緊急時に適切な行動がとれるようにすること。」が挙げられている。

また、総則において、「幼稚園生活が幼児にとって安全なものとなるよう、教職員による協力体制の下、幼児の主体的な活動を大切にしつつ、園庭や園舎などの環境の配慮や指導の工夫を行うこと」としている。

このように、幼稚園における安全教育では、(エ) 幼稚園生活全体を通して安全な生活習慣や態度の育成に重点が置かれ、教師や保護者の支援を受けながら、自らが安全な生活を送ることができるようにすることを目指している。

	ア	イ	ウ	エ
1	○	○	×	○
2	×	×	○	○
3	○	×	○	×
4	○	×	×	×
5	×	○	×	○

15 次のア～エの各文のうち、幼児期運動指針（平成24年３月　文部科学省　幼児期運動指針策定委員会）「２　幼児期における運動の意義」に関する記述として正しいもののみをすべてあげているものはどれか。1～5から一つ選べ。

ア　幼児期は、神経機能の発達が著しいものの、タイミングよく動いたり、力の加減をコントロールしたりするなどの運動を調整する能力が顕著に向上するとはいえない。そのため、周りの状況の的確な判断や予測に基づいて行動する能力を身に付けることで、けがや事故を防止することにもつながる。

イ　幼児期に適切な運動をすると、丈夫でバランスのとれた体を育みやすくなる。特に運動習慣を身に付けると、身体の諸機能における発達が促されることにより、生涯にわたる健康的で活動的な生活習慣の形成にも役立つ可能性が高く、肥満や痩身を防ぐ効果もあり、幼児期だけでなく、成人後も生活習慣病になる危険性は低くなると考えられる。

ウ　幼児にとって体を動かす遊びなど、思い切り伸び伸びと動くことは、健やかな心の育ちも促す効果がある。また、遊びから得られる成功体験によって育まれる意欲や有能感は、体を活発に動かす機会を増大させるとともに、何事にも意欲的に取り組む態度を養う。

エ　運動を行うときは状況判断から運動の実行まで、脳の多くの領域を使用する。すばやい方向転換などの敏捷な身のこなしや状況判断・予測などの思考判断を要する全身運動は、脳の運動制御機能や知的機能の発達促進に有効であると考えられる。

1	ア	イ	
2	ア	エ	
3	イ	ウ	
4	ア	ウ	エ
5	イ	ウ	エ

16 次の文章は、幼稚園教育要領（平成29年３月告示）「第２章　ねらい及び内容　表現　３　内容の取扱い」に関する記述の一部である。下線部（ア）～（ウ）の記述について、正しいものを○、誤ったものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

幼児の自己表現は(ア)素朴な形で行われることが多いので、教師はそのような表現を(イ)受容し、幼児自身の表現しようとする意欲を受け止めて、幼児が生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことができるようにすること。

生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、様々な素材や表現の仕方に親しんだり、(ウ)他の幼児の表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切にして自己表現を楽しめるように工夫すること。

	ア	イ	ウ
1	×	○	○
2	○	×	×
3	○	○	×
4	○	○	○
5	×	×	×

17 次のア～エの各文のうち、「外国人幼児等の受入れにおける配慮について」（文部科学省）に関する内容として、正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア　多くのことを一度に説明したり確認したりするのではなく、状況に応じて徐々に確認していくことも大切です。また、確認したつもりでも相手に伝わっていなかったり、滞在年数等の状況が変わったりすることもありますので、折に触れてコミュニケーションを図り、幼稚園と保護者が徐々に相互理解を深めていくようにします。

イ　生活習慣や宗教に関わる行動などについて必ずしも日本の習慣に合わせさせるのではなく、外国人幼児等の考え方や文化を受け止め、学級の他の幼児にも文化の違いとして受け止められるような指導が求められます。

ウ　外国人幼児等の受入れは、外国人幼児等にとっても日本人幼児にとっても、異なる習慣や行動様式をもった他の幼児と関わり、それを認め合う貴重な経験につながることを踏まえ、日本人幼児、外国人幼児等を問わず、日々の遊びや生活の中で様々な幼児と関わり合いながら自己を発揮できるように支援をしていくことが大切です。

エ　外国人幼児等が来日した理由や滞在期間等も踏まえつつ、外国人幼児等をありのままに受け入れ、「日本社会への同化を強要するのではなく、外国人幼児等の気持ちを受け止め、文化的な違いを理解する姿勢を示した上で、どうしてほしいのか・どうしたらいいのかを外国人幼児等やその保護者とともに考える」、「外国人幼児等だけでなく多様な幼児一人一人が幼稚園での生活を十分に楽しむようにする」という基本姿勢を担任教師のみがもてるようにすることが大切です。

	ア	イ	ウ	エ
1	○	×	×	×
2	○	×	○	×
3	○	○	○	×
4	×	○	×	○
5	×	×	×	○

18　次の［A群］に示す音楽用語と、［B群］に示す用語の意味の組合せとして、最も適切なものを、1～5から一つ選べ。

［A群］

A　a tempo

B　moderato

C　allegro

［B群］

ア　速く

イ　もとの速さで

ウ　今までより速く

エ　中ぐらいの速さで

	A	B	C
1	ア	イ	ウ
2	イ	ウ	エ
3	イ	エ	ア
4	ウ	イ	エ
5	ウ	エ	ア

19 次のア～エのうち、〔　　〕内に示されている法規名と、条文または条文の一部の組合せとして、正しいもののみをすべてあげているものはどれか。1～5から一つ選べ。

ア　〔教育基本法〕

幼稚園の教育課程その他の保育内容については、この章に定めるもののほか、教育課程その他の保育内容の基準として文部科学大臣が別に公示する幼稚園教育要領によるものとする。

イ　〔学校保健安全法〕

学校においては、児童生徒等の安全の確保を図るため、当該学校の施設及び設備の安全点検、児童生徒等に対する通学を含めた学校生活その他の日常生活における安全に関する指導、職員の研修その他学校における安全に関する事項について計画を策定し、これを実施しなければならない。

ウ　〔学校教育法〕

幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校においては、次項各号のいずれかに該当する幼児、児童及び生徒その他教育上特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対し、文部科学大臣の定めるところにより、障害による学習上又は生活上の困難を克服するための教育を行うものとする。

エ　〔教育基本法〕

この法律で、学校とは、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校とする。

1	ア	エ	
2	イ	ウ	
3	ア	イ	ウ
4	ア	ウ	エ
5	イ	ウ	エ

20 次のア～エの各文は、幼稚園教育要領（平成29年３月告示）「第２章　ねらい及び内容　人間関係　２　内容」に関する記述の一部である。正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。

ア　自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。

イ　親しみをもって日常の挨拶をする。

ウ　先生や友達の言葉や話に興味や関心をもち、親しみをもって聞いたり、話したりする。

エ　高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

	ア	イ	ウ	エ
1	○	○	○	○
2	×	×	○	○
3	○	×	×	○
4	×	○	○	×
5	○	○	×	×

21 次の（1）～（3）の各文は、幼稚園教育要領（平成29年３月告示）「第２章　ねらい及び内容　環境　1　ねらい」に関する記述の一部である。空欄（A）～（C）にあてはまる語句をあとの語群から選ぶとき、正しい組合せはどれか。1 ～ 5 から一つ選べ。

（1）身近な環境に親しみ、（　A　）と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。

（2）身近な環境に自分から関わり、（　B　）を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。

（3）身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する（　C　）を豊かにする。

語群

ア　友達	イ　心情	ウ　探求
エ　発見	オ　自然	カ　感性
キ　感覚	ク　事象	ケ　動物

	A	B	C
1	ア	エ	カ
2	ア	ク	カ
3	オ	ウ	イ
4	オ	エ	キ
5	ケ	ク	キ

22 次のア～エのうち、幼稚園教育要領解説（平成30年２月　文部科学省）「第３章　教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項」に関する記述として、正しいものを○、誤っているものを×とした場合、正しい組合せはどれか。１～５から一つ選べ。

ア　この活動に当たって、まず配慮しなければならないのは、幼児の活動への思いと、遊びを豊かにするための様々な遊具や用具が多く確保されるような環境である。

イ　教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動は幼稚園が行うものであることを踏まえ、教育活動として安全で適切な活動となるよう教育活動の内容を確認したり、緊急時の連絡体制を整える等、責任体制を整えておくことも大切である。

ウ　保護者と幼児の様子等について情報交換などを行う中で、教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動の趣旨や家庭における教育の重要性を保護者に十分に理解してもらい、保護者が、幼稚園と共に幼児を育てるという意識が高まるようにすることが大切である。

エ　教育課程に基づく活動を考慮するということは、活動を連続させるということである。教育課程に係る教育時間中における幼児の遊びや生活など幼児の過ごし方に配慮して、教育課程に係る教育時間の終了後等の教育活動を考えることを意味するものであり、幼児にとって充実し、無理のない１日の流れをつくり出すことが重要である。

	ア	イ	ウ	エ
1	×	×	×	○
2	×	○	○	×
3	○	○	×	×
4	×	×	○	×
5	○	○	×	○

23 次のア～オは、幼児理解に基づいた評価（平成31年３月　文部科学省）「第２章　幼児理解に基づいた評価の基本的な考え方」に関する記述である。教師の姿勢として大切にしたい点についての記述として、誤っているもののみをすべてあげているものはどれか。**1**～**5**から一つ選べ。

ア　幼児との温かい関係を育てるためには、優しさなどの幼児への配慮、幼児に対する関心をもち続けるなどの気持ちが必要です。そして、その気持ちを幼児に具体的に伝えることが大切です。

イ　教師が一人の幼児と温かい関係を結ぶことは、それを見ている他の幼児にとっても教師への信頼感を寄せることにつながります。さらに、教師が一人一人の幼児を大切にする姿勢は、幼児同士が互いを大切にする姿勢にもつながっていき、それは学級全体の温かい関係をつくり出すことにもつながるのです。

ウ　現実には完全にその幼児の立場に立つことは不可能なことです。しかし、そのときの様々な状況を考え合わせて、その幼児の立場から物事を見てみようとする姿勢、言動をその幼児の立場で受け止めてみようとする姿勢が教師には求められています。

エ　内面を理解するといっても、何か特別の理論や方法を身に付けなければならないものではありません。幼児は、その時々の思いを生活の様々な場面で表現しています。一人一人が送っている幼児らしいサインを丁寧に受け止めていくことによって、幼児の内面に触れることができるでしょう。

オ　次々といろいろな面で変化を見せる幼児もいれば、長い間同じような姿に見える幼児もいます。そのような幼児も、あるときに急に変化を見せることがあるのです。幼児ができること、新たにできるようになった目に見える変化にこだわり、発達と捉えていきます。

1　ウ
2　オ
3　ア　ウ
4　イ　エ
5　ア　エ　オ

24 次のア～エは、日本学校保健会「学校において予防すべき感染症の解説」（平成30（2018）年３月発行）に関する記述である。「Ⅲ　感染症各論」に関する記述として正しいもののみをすべてあげているものはどれか。1～5から一つ選べ。

ア　伝染性膿痂疹（とびひ）

黄色ブドウ球菌などの皮膚感染によって、紅斑、水疱、びらん及び厚い痂皮ができる疾患。夏期に多く、乳幼児に好発する。接触感染。かゆみを伴うことがあり、病巣は擦過部に広がる。皮膚を清潔に保つことが大切。集団生活の場では感染予防のため病巣を有効な方法で覆うなどの注意が必要。出席停止の必要はないが、炎症症状の強い場合や、化膿した部位が広い場合は、傷に直接触らないように指導する。

イ　感染性胃腸炎（ノロウイルス感染症、ロタウイルス感染症、アデノウイルス感染症など）

嘔吐と下痢が突然始まることが特徴の疾患である。便中に多数のウイルスが排出されており、感染源となる。嘔吐と下痢が主症状であり、ロタウイルス感染症にり患した乳幼児は時に下痢便が白くなることもある。脱水に対する予防や治療が最も大切である。下痢、嘔吐症状が軽減した後、全身状態の良い者は登校（園）可能だが、回復者であっても、排便後の始末、手洗いの励行は重要である。

ウ　伝染症軟属腫（水いぼ）

特に幼児期に好発する皮膚疾患である。接触感染。感染すると、自家接種で増加する。いぼが数個散財する場合や、広い範囲にわたって多発する場合もある。プールや水泳で直接肌が触れると感染するため、露出部の水いぼは覆ったり、処置したりしておく。タオル、ビート板、浮き輪などの共有を避ける。出席停止の必要はない。

エ　アタマジラミ症

頭皮に寄生し、頭皮の皮膚炎から、次第に全身に広がる疾患である。誤解されることが多いが、衛生不良の指標ではない。一般に無症状であるが、吸血部位にかゆみを訴えることがある。頭髪を丁寧に観察し、早期に虫卵を発見することが大切。発見したら一斉に駆除する。出席停止の必要はない。

1　ア　イ　ウ
2　ア　ウ　エ
3　イ　ウ　エ
4　ア　エ
5　イ　ウ